

本研究成果一覧

2020 - 2024 年度の研究代表者・分担者による研究成果を以下に示す。

■論文・研究ノート・その他

丹羽崇史 2021「製作技術からみた九連墩墓地出土青銅鼎―「同模品」と製作痕跡の分析による戦国時代青銅器生産体制・供給形態の検討―」『持続する志―岩永省三先生退職記念論文集』577-595 頁、岩永省三先生退職記念事業会、福岡〔査読無〕

【本書Ⅱ-1】（中国語版：丹羽崇史（唐麗薇 訳）2023「從制作技術看九連墩墓地出土的青銅鼎―基于“同模品”与制作痕迹分析的戰国時期青銅器生産体系及其供給形式的探討」『三代考古』10、248-270 頁、科学出版社、北京）

丹羽崇史 2021「侯馬青銅遺跡における溶解炉の検討」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』14、48-50 頁〔査読有〕【本書Ⅰ-2】

丹羽崇史 2021「東アジアにおける「北方系」湾曲羽口の展開」『中国考古学』21、91-102 頁〔査読有〕【本書Ⅰ-1】

丹羽崇史 2021「「産廃」の考古学―いにしえのものづくりを探究する―」、コラム作寶樓〔査読無〕

<https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2021/04/20210415.html>

森貴教・丹羽崇史 2021「古代都城における生産遺跡出土砥石の基礎的検討―平城京の青銅遺跡出土品を対象として―」『奈良文化財研究所紀要 2021』奈良文化財研究所、16-17 頁〔査読無〕

森貴教・村田友輝・古川貢 2022「姥ヶ入南遺跡出土鉄斧の X 線 CT 調査」『長岡市立科学博物館研究報告』57、長岡市立科学博物館、73-76 頁〔査読無〕

森貴教・月山陽介 2022「飯塚市下ノ方遺跡採集の砥石について」『環日本海研究年報』27、新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室、56-63 頁〔査読有〕

森貴教 2022「砥石から読みとる弥生時代の鉄器化―新潟を対象として―」『月刊考古学ジャーナル』766、15-18 頁〔査読無〕

丹羽崇史 2022「日本古代の土製鑄型についての基礎的検討」『奈良文化財研究所紀要 2022』16-17 頁〔査読無〕【本書Ⅰ-3】

丹羽崇史 2022「二里頭時代から漢代における土製鑄型の基本構造の変遷」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』15、24-26 頁〔査読有〕【本書Ⅰ-4】

丹羽崇史（唐麗薇 訳）2022「從“対照実験”看商周青銅器鑄造技術」『文化遺産科技認知研究集刊（2021 年版）』21-30 頁、安徽科学技術出版社、合肥〔査読無〕

森貴教 2022「布留遺跡における砥石の消費形態―生産域出土品を対象として―」『天理市観光協会設立 65 周年記念事業　ここまで判った布留遺跡―物部氏以前とその後― 発表資料集』193-197 頁、天理市観光協会、天理〔査読無〕

森貴教・五十嵐文子・村田友輝 2023「赤坂遺跡第 2 次調査出土微細金属片の X 線 CT 分析・元素分析」『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅲ 赤坂遺跡 2』（島崎川流域遺跡調査団報告第 3 集・新潟大学考古学研究室調査研究報告 22）、54-58 頁、島崎川流域遺跡調査団、新潟〔査読無〕

森貴教・月山陽介 2023「赤坂遺跡第 2 次調査出土砥石の検討」『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅲ 赤坂遺跡 2』（島崎川流域遺跡調査団報告第 3 集・新潟大学考古学研究室調査研究報告 22）、59-65 頁、島崎川流域遺跡調査団、新潟〔査読無〕

森貴教 2023「交野市森遺跡出土砥石の検討」『令和 4 年度特別展交野市文化財保存活用地域計画関連企画 交野の文化財Ⅴ 交野の王墓と鉄器生産』（交野市立教育文化会館展示図録Ⅰ）、113-117 頁、交野市教育委員会、交野〔査読無〕

丹羽崇史（陳彦如 訳）2023「成像技術與商周青銅器製作技術的研究」『開物：科技與文化』1、58-72 頁〔査読有〕

丹羽崇史・長柄毅一 2023「失原型鑄造実験試料・鑄型の金属学的調査―失錫法実験試料を対象として―」『日本文化財科学会第 40 回記念大会研究発表要旨集』108-109 頁〔査読無〕【本書Ⅰ-5】

丹羽崇史・村田泰輔 2023「鑄造関連民具の考古学・文化財科学的調査」『日本文化財科学会第 40 回記念大会 研究発表要旨集』106-107 頁〔査読無〕【本書Ⅰ-6】

長柄毅一・三宮千佳・三船温尚 2023「江戸～昭和にかけて製作された青銅花器の成分と製作技法―富山大学大郷コレクションの科学的調査をもとに―」『FUSUS』15、119-128 頁〔査読有〕

酒井英男・菅頭明日香・長柄毅一・白澤崇 2023「青銅の残留磁化による研究と梵鐘での研究例」『情報考古学』28 - 1・2、28-33 頁〔査読有〕

長柄毅一 2024「青銅鏡片の表面観察と成分の推定」『桜井茶臼山古墳の研究－再発掘調査と出土遺物再整理－ 令和2年度－令和5年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（一般））：「日本における初期王陵の実態解明：「国産化という産業革命」の視点から」（研究課題番号：20H00039）研究成果報告書』190-198頁、奈良県立橿原考古学研究所、橿原〔査読無〕
森貴教 2024「自然科学的分析（石材）」『考古学研究会70周年記念誌 考古学の輪郭』178-179頁、考古学研究会、岡山〔査読無〕

森貴教 2024「砥石組成からみた布留遺跡の手工業生産」『布留遺跡の考古学―物部氏隆盛の地―』343-348頁、六一書房、東京〔査読無〕

長柄毅一・三船温尚・杉本和江 2024「江戸大仏鑄造過程における湯流れ、凝固過程の検証」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』17、66-68頁〔査読有〕

丹羽崇史・村田泰輔 2024「中国青銅器・銭貨鑄型の調査―泉屋博古館・和泉市久保惣記念美術館所蔵資料を対象として―」『日本文化財科学会第41回記念大会研究発表要旨集』114-115頁〔査読無〕【本書Ⅰ－7】

丹羽崇史 2024「春秋戦国時代山西中南部地域における青銅器生産体制 復元のための基礎的検討」『東アジア考古学の新たな地平 宮本一夫先生退職記念論文集』759-776頁、宮本一夫先生退職記念事業会、福岡〔査読無〕【本書Ⅱ－2】

丹羽崇史 2024「東アジア冶金史学の開拓―シンポジウム開催報告を兼ねて―」、コラム作寶樓〔査読無〕

<https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2024/12/20241220.html>

丹羽崇史 2025「冶金関連遺物による東アジア冶金史学の構築―鑄型・羽口・溶解炉―」『まてりあ』64-3、157-161頁〔査読有〕

森貴教・丹羽崇史 2025「砥石からみた平城京における冶金生産体制」『奈文研論叢』5、13-28頁〔査読有〕【本書Ⅰ－8】

森貴教 2025「鍛冶屋の砥石―信濃町旧中村家の鍛冶道具にみられる砥石の検討―」『先史学・考古学論究Ⅸ』397-406頁、龍田考古会〔査読無〕

■図書

森貴教（編）2022『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅱ 上桐の神社裏遺跡2・赤坂遺跡1』（島崎川流域遺跡調査団報告第2集・新潟大学考古学研究室調査研究報告21）、島崎川流域遺跡調査団、新潟

立山博物館・三宮千佳・三船温尚・長柄毅一 2023『文暦2年（1235）銘を持つ辻徳法寺所蔵（富山県黒部市）鉄造阿弥陀如来坐像の科学調査報告書』立山博物館、立山

森貴教（編）2023『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅲ 赤坂遺跡2』（島崎川流域遺跡調査団報告第3集・新潟大学考古学研究室調査研究報告22）、島崎川流域遺跡調査団、新潟

森貴教（編）2024『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅳ 赤坂遺跡3』（島崎川流域遺跡調査団報告第4集・新潟大学考古学研究室調査研究報告24）、島崎川流域遺跡調査団、新潟

丹羽崇史（編）2024『シンポジウム「東アジア冶金史学の開拓」要旨集』奈良文化財研究所、奈良

森貴教（編）2025『長岡市島崎川流域遺跡群の研究Ⅴ 赤坂遺跡4』（島崎川流域遺跡調査団報告第5集・新潟大学考古学研究室調査研究報告25）、島崎川流域遺跡調査団、新潟

丹羽崇史（編）2025『土製鑄型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築 2020～2024年度（令和2年度～令和6年度）科学研究費助成事業（基盤研究（B））（課題番号：JP20H01365（2020-2023）、JP23K20122（2024））研究成果報告書』奈良文化財研究所、奈良【本書】

■研究発表・講演・講座普及活動

丹羽崇史「東アジアにおける「北方系」湾曲羽口の展開」日本中国考古学会2020年度大会、2021年1月9日〔オンライン開催・誌上発表〕

森貴教「姥ヶ入南遺跡出土鉄斧の構造―X線CT調査から―」新潟考古学談話会オンライン例会#10、2021年8月7日〔オンライン開催・口頭発表〕

長柄毅一・南健太郎・廣川守・三船温尚「三角縁神獣鏡の鑄造シミュレーションによる湯流れ、凝固過程の考察」アジア鑄造技術史学会高岡大会、2021年8月21日－9月5日〔オンライン発表〕

丹羽崇史「侯馬鑄銅遺跡における溶解炉の検討」アジア鑄造技術史学会高岡大会、2021年8月21日－9月5日〔オン

ライン発表]

丹羽崇史「成像技術與商周青銅器製作技術的研究」文化遺産与智能科技工作坊、2021年8月23日、香港浸会大学歴史系〔オンライン開催・口頭発表〕

NIWA Takafummi “Transformation of clay molds in ancient Japan” 第六屆古代材料研究專題研討會、2021年9月26日、北京科技大学〔オンライン開催・口頭発表〕

丹羽崇史「製作技術からみた中国青銅器」公益財団法人白鶴美術館秋季展「中国青銅器 一円と方の協調美」講演会、2021年11月7日、公益財団法人白鶴美術館〔講師〕

NIWA Takafumi “Long history of “Northern style” curved blow pipe(tuyere): From Eurasian Steppes to Japan” BUMA X (THE TENTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON THE BEGINNINGS OF THE USE OF METALS AND ALLOYS)、2022年7月7日〔オンライン開催・口頭発表〕

Takekazu Nagae, Buunyarit Chaisuan, Bunchar Pongpanich, Tsutomu Saito, Yasuji Shimizu “Microstructure and fabrication method of ancient bronzeware in Thailand” BUMA X (THE TENTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON THE BEGINNINGS OF THE USE OF METALS AND ALLOYS)、2022年7月8日〔オンライン開催・口頭発表〕

長柄毅一・南健太郎・廣川守・三船温尚「復元鑄造した三角縁神獣鏡の成分分析」アジア鑄造技術史学会 2022 福岡大会 2022年7月23日、九州大学伊都キャンパス〔口頭発表〕

丹羽崇史「二里頭時代から漢代における土製鑄型の基体構造の変遷」アジア鑄造技術史学会 2022 福岡大会、2022年7月24日、九州大学伊都キャンパス〔口頭発表〕

丹羽崇史「成像技術と商周青銅器製作技術研究—以日本近期研究為例」文物 X 射線成像技術應用國際研討會、2022年10月28日 上海博物館〔オンライン開催・口頭発表〕

丹羽崇史「中国古代の銅生産」シンポジウム「東アジア世界の青銅器文化源流を求めて」(アジア鑄造技術史学会 韓国支部學術大會)、2023年5月6日、嶺南大学校考古人類学科〔口頭発表〕

森貴教「赤坂遺跡第2次発掘調査の概要」赤坂遺跡第2次発掘調査の成果報告会(長岡市上桐地区)「丘陵上に暮らした弥生人の足跡をたどって」(新潟大学人文学部考古学研究室・わしまコミュニティ協議会・和島公民館共催) 2023年5月20日、地域交流館わしま(和島小学校講堂)〔企画・講師〕

森貴教・青木要祐「長岡市赤坂遺跡の調査」新潟県考古学会第35回大会、2023年6月11日、新潟市万代市民会館6階多目的ホール〔口頭発表〕

NIWA Takafumi “A Reconstruction of the Melting Furnace of Houma Bronze Foundry Site: From East Asian Perspective” 16th International Conference on the History of Science in East Asia (16th ICHSEA)、2023年8月24日、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン〔口頭発表〕

丹羽崇史「日本学者対商周青銅器生産と流通の研究：以東周青銅器為中心」黄河流域青銅文明國際學術研討會、2023年9月16日、山西博物院〔ビデオ発表〕

丹羽崇史・長柄毅一「失原型鑄造実験試料・鑄型の金属学的調査—失錫法実験試料を対象として—」日本文化財科学会第40回記念大会、2023年10月21日、なら歴史芸術文化村〔ポスター発表〕

丹羽崇史・村田泰輔「鑄造関連民具の考古学・文化財科学的調査」日本文化財科学会第40回記念大会、2023年10月22日、なら歴史芸術文化村〔ポスター発表〕

森貴教・青木要祐「【調査報告会】新潟の弥生文化を掘る—2023年度発掘調査成果—」新潟大学 Week2023(新潟大学創立75周年事業、新潟大学主催)、2023年10月29日、新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究棟D棟1階大会議室〔企画・講師〕

森貴教「石器・鉄器から探る新潟の弥生文化」令和5年度史跡古津八幡山弥生の丘展示館企画展2「古津八幡山遺跡の石器と鉄器」関連講演会、2023年11月26日、新潟市文化財センター研修室〔講師〕

丹羽崇史「二里頭時代から漢代における土製鑄型の製作技法・材質・構造に関する学史的検討—自然科学分析成果を中心に—」2023年度日本中国考古学会大会、2023年12月16日、九州大学伊都キャンパス〔ポスター発表〕

丹羽崇史「中国古代における青銅器鑄造技術」公益社団法人日本鑄造工学会 技術講習会(関西支部 第16回 鑄造セミナー)「【温故知新】古代の鑄造技術を知る」、2024年3月1日、兵庫県立工業技術センター〔口頭発表〕

森貴教「列島北部日本海側における高地性集落の特質—長岡市赤坂遺跡の調査から—」科学研究費助成事業成果公

開・普及シンポジウム「「高地性集落」論のいま—半世紀ぶりの研究プロジェクトの成果と課題—」、JSPS 科学研究費 JP20H01356（基盤研究 B）「弥生時代高地性集落の列島の再検証」（研究代表者：森岡秀人）、2024 年 3 月 2 日、同志社大学今出川キャンパス良心館 1 階 RY107 教室〔口頭発表〕

丹羽崇史「黄河・長江流域の熔銅技術—商周時代を中心に—」愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター第 14 回国際学術シンポジウム「弥生時代の熔銅技術とその系譜」、2024 年 5 月 18 日、愛媛大学メディアホール〔口頭発表〕

長柄毅一「鋳型通気度と鋳造欠陥の関係について—鋳造シミュレーション—による欠陥予測」シンポジウム「東アジア冶金史学の開拓」、2024 年 6 月 8 日、科学研究費 基盤研究（B）「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」主催、奈良文化財研究所〔口頭発表〕

村田泰輔・丹羽崇史「日本所在中国青銅器・銭貨鋳型に関する X 線 CT 調査」シンポジウム「東アジア冶金史学の開拓」、2024 年 6 月 8 日、科学研究費 基盤研究（B）「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」主催、奈良文化財研究所〔口頭発表〕

森貴教「砥石組成からみた手工業生産—冶金・鍛冶関連遺跡出土砥石の検討—」シンポジウム「東アジア冶金史学の開拓」、2024 年 6 月 8 日、科学研究費 基盤研究（B）「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」主催、奈良文化財研究所〔口頭発表〕

丹羽崇史「冶金関連遺物からみた東アジア熔銅技術の変遷」シンポジウム「東アジア冶金史学の開拓」、2024 年 6 月 8 日、科学研究費 基盤研究（B）「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」主催、奈良文化財研究所〔口頭発表〕

丹羽崇史「从“对照実験”来看青銅器鑄造技術」鄭州大学考古与文化遺産学院暑假小学期學術講座、2024 年 7 月 5 日、鄭州大学考古与文化遺産学院〔オンライン開催・講師〕

丹羽崇史「從冶金遺物看到的東亞青銅文化」吉金鑄史—三星堆文化与中国青銅時代國際學術研討会、2024 年 7 月 23 日、四川広漢三星堆博物館・四川省文物考古研究院〔ビデオ発表〕

丹羽崇史・村田泰輔「中国青銅器・銭貨鋳型の調査—泉屋博古館・和泉市久保惣記念美術館所蔵資料を対象として—」日本文化財科学会第 41 回記念大会、2024 年 7 月 28 日、青山学院大学〔ポスター発表〕

長柄毅一・三船温尚・杉本和江「江戸大仏鋳造過程における湯流れ、凝固過程の検証」アジア鋳造技術史学会 2024 東京大会、2024 年 9 月 15 日、國學院大學渋谷キャンパス〔口頭発表〕

村田泰輔・丹羽崇史「対泉屋博古館、和泉市久保惣記念美術館所蔵青銅器、銅鏡和銭幣鋳範の X 射線 CT 調査」侯馬陶範技術与芸術國際學術研討会、2024 年 11 月 2 日、山東大学青島キャンパス〔口頭発表〕

丹羽崇史「侯馬工匠怎么鑄造青銅器？：從東亞考古看到的古代熔銅技術」先秦考古工作坊之侯馬鑄銅遺址研究、2024 年 11 月 5 日、山西大学〔講師〕

森貴教「根塚遺跡出土の提低をめぐって—系譜と時期の検討—」シンポジウム「根塚遺跡、再び—東と西から奥信濃の弥生時代を問い直す—」（西日本篇）、2024 年 11 月 30 日、木島平村若者センター 1 階研修室〔口頭発表〕

■シンポジウム

シンポジウム「東アジア冶金史学の開拓」、2024 年 6 月 8 日、科学研究費研究課題「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」主催、奈良文化財研究所

『黄銅（鎳石・真鎳）の歴史と伝来の道「Brass Road」の研究』研究会、2024 年 12 月 14 日・15 日、科学研究費 基盤研究（A）「黄銅（鎳石・真鎳）の歴史とその伝来の道「Brass Road」の研究」・科学研究費 基盤研究（B）「土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築」共催、奈良大学